

BCT 2009

ビジネス中国語能力検定試験要綱

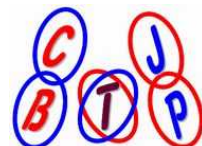
[B C T (日本) の内容は、日本 B C T 事務局 (セリングビジョン (株)) が加筆しています]

中国・国家中国語能力検定試験委員会

北京大学ビジネス中国語能力検定試験研究開発室 共著

北京大学出版社

日本語翻訳：日本 B C T 事務局 セリングビジョン株式会社



BCT の紹介

BCT は、母国語が中国語ではない方のビジネス中国語能力を検定するために開発された中国政府の国家レベルの標準試験であり、中国国家中国語能力検定試験委員会の依頼を受け、北京大学によって研究製作されたものです。英語名は Business Chinese Test であり、略称は BCT です。

BCT は、ビジネスに関する様々な場面での中国語応用力を評価する試験であるため、実践能力、コミュニケーション能力を高めることが大きな特徴となっています。

中国政府の 12 の中央官庁が共同で国家中国語能力検定試験委員会を設立し、直接に BCT を管轄し、ビジネス中国語能力証書を発行しています。委員会の傘下には国家中国語能力検定試験委員会の推進本部が設けられ、北京大学の対外漢語教育学院のビジネス中国語能力検定試験研究開発室と共同で BCT の試験業務を担当しています。

BCT は毎年、定期的に中国および海外諸国で行われます。

一、BCT の受験対象

BCT は、母国語が中国語ではない方々を受験対象としています。

二、試験の用途

BCT は、ビジネスに従事する方々の中国語のレベルを評価する必要がある全世界の各種機関及び個人に、検定試験の基準を提供する試験です。その主な用途には下記の通りです。

- 1、ビジネス組織における採用、選抜、昇給などの人事面での決定に際して、関係者のビジネス中国語レベルを評価するコンテンツを提供する。
- 2、各種の教育関連機関における、学生募集、クラス分けの決定に際して、学生のビジネス中国語レベルを評価するコンテンツを提供する。
- 3、中国語の学習者が、自分のビジネス中国語レベルを評価し、一層レベルアップするためのコンテンツを提供する。
- 4、各種の語学教育機関、養成期間での教育・トレーニング効果を上げるコンテンツを提供する。

三、等級分けの基準

BCT はその内容により、以下の 5 つのレベルに区分されます。

- 1 級 中国語を用いてビジネスに従事する能力がまだ備わっていない。
- 2 級 ビジネスにおいて簡単な中国語を用いて、限られたコミュニケーションを行うことができる。
- 3 級 かなり効果的に中国語を用いてビジネスに従事することができる。
- 4 級 かなり上手に中国語を用いてビジネスに従事することができる。
- 5 級 かなり流暢に、適切に中国語を用いてビジネスに従事することができる。

四、試験の成績及び証書

BCTは、□「ヒアリング」と「読解」□「会話」と「作文」の二部構成から成り立っています。受験者は、□と□のどちらかを選択して受験するか、あるいは□と□を同時に選択して受験することも可能です。

「ヒアリング」と「読解」の等級および採点については下表の通りです。「ヒアリング」と「読解」の各項目の得点範囲は0～500点であり、各等級ごとに100点きざみです。「ヒアリング」と「読解」の総得点数の範囲は0～1000点であり、各等級ごとに200点きざみとなります。

表1 BCT「ヒアリング」と「読解」の等級及び点数

等級	ヒアリング・読解の点数	総得点
1	0 - 100	0 - 200
2	101 - 200	201 - 400
3	201 - 300	401 - 600
4	301 - 400	601 - 800
5	401 - 500	801 - 1000

□「会話」と「作文」の等級および採点については下表の通りです。「会話」と「作文」の各項目の得点範囲は0～50点であり、各等級ごとに10点きざみです。「会話」と「作文」の総得点数の範囲は0～100点であり、各等級ごとには20点きざみとなります。

表2 BCT「会話」と「作文」の等級及び点数

等級	会話・作文の点数	総得点
1	0 - 10	0 - 20
2	11 - 20	21 - 40
3	21 - 30	41 - 60
4	31 - 40	61 - 80
5	41 - 50	81 - 100

BCT□「ヒアリング」と「読解」あるいは□「会話」と「作文」を受験した方には、受験成績書が送付されます。

「ヒアリング」と「読解」の総得点201～400点を取った方には2級の「BCT（ヒアリング及び読解）」証書が交付されます。同様に、3級、4級、5級に合格するには、それぞれの得点が必要となります。

「会話」と「作文」の総得点21～40点を取った方には2級の「BCT（会話と作文）」証書が交付されます。同様に3級、4級、5級に合格するには、それぞれの得点が必要となります。

尚、BCTは1級の中国語能力証明書を設けておりません。

試験成績の有効期間は、試験日から起算して、2年間です。

BCT の等級基準

「BCT の等級基準」は出題及び採点の重要な根拠となっています。「BCT の等級基準」の中には下記の四項目が含まれています。即ち、等級評価基準、言語スキル、文法知識、ビジネス事務です。(詳細については別添諸表をご覧ください)

「等級評価基準」とは、ビジネスにおける中国語コミュニケーション能力を、等級 1 級から等級 5 級までの基準で総合的に示しています。

「言語スキル」では、中国語を用いた表現能力を、等級 1 級から等級 5 級までの基準で示しています。

「文法知識」には、文法が言語スキルの基礎能力であるため、「文法」、「語彙」、「文体」等の理解度の基準が含まれています。

「ビジネス実務」には、中国語を用いてビジネスに従事する際の、応用能力の具体例を示しています。各レベルのすべての例を含んでいるわけではありません。

表中の「文法知識」と「ビジネス実務」欄について、上位レベルは下位レベルを網羅しています。

当検定試験は、中国語を用いて最低限の日常的コミュニケーションが行える受験者を対象とする試験であるため、当レベルより低い方の検定は対象外としております。

(別添)

表3 BCTの等級基準

等級評価基準		言語スキル	文法知識	ビジネス実務
1	中国語を用いてビジネスに従事する能力がまだ弱い。	<ul style="list-style-type: none"> ●日常生活の中で最も基本的な応答ができると同時に、自分からも簡単な問合せをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●最も基礎的な文法を多少使用することができる。 ●覚えている単語の量はまだ少ない。最も常用のビジネス単語も身につけてない。 ●中国語の聞き取りと会話にはまだその語感に慣れていない状態である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●簡単な挨拶および感謝の言葉を話せる。 ●簡単な願い事を話せる。 ●簡単な漢字の標識を識別することができる。
2	ビジネスにおいて、簡単な中国語を用いて、限られたコミュニケーションを行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●問合せをすることができる。自分に関する紹介をすることができる。 ●自分の考え、希望を言える。肯定的な答え方と疑問を言うことができる。 ●自分の考えおよび不満を伝えられる。他人にお詫びを言うことができる。他人の謝罪を聞いて、理解することができる。 ●相手をお招きするメッセージを発することができる。相手方からのお招きを受けられる。お断りすることもできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な文法知識がわかる。 ●ある程度の単語量を有する。少量の最も常用のビジネス用語を使用することができる。 ●正式な場合における一般的な言い方とインフォーマルな場合における言い方の区別をつけられる。場合によりインフォーマルな言い方を使用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道を尋ねるとともに、道を教えられる。 ●普通の買物。 ●チケット関係の予約、宿泊の予約。 ●手紙受け取り後の返信。 ●簡単な伝言メモを書ける。 ●お客さまへの対応 ●求職及び応募

等級評価基準		言語スキル	文法知識	ビジネス実務
3 級	かなり効果的に中国語を用いてビジネスに従事することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●物事の状況を説明することができる。 ●物事の経過を述べることができる。 ●正確に物事の比較をすることができる。 ●疑問点を説明することができるとともに、勘違いを訂正することもできる。 ●多くの言い方で謝意、賛同、提案、受け入れ、お断りを表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国語の文法知識を比較的良好に身につけている。 ●一般用語を覚えている上に、一定の常用のビジネス語彙を使用することができる。 ●基本的に正式な場合における一般的な言い方とインフォーマルな場合における言い方の区別をつけられるとともに、予測可能な場面において、正式な言い方を使用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人物の描写、品物の外観及び特徴を言える。 ●世間の話題について話し合える。 ●電話で簡単なことを話せる。 ●ビジネス文書及び電子メールを書ける。 ●会議の進行次第を計画することができる。 ●製品の性能及び生産過程について質問することができる。類似品との比較状況が言える。
4 級	かなり上手に中国語を用いてビジネスに従事することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えを表現できる。または相手方の考えを打診できる。 ●詳しく物事の事由を述べることができる。 ●妥協の表現が言える。 ●物事に対して評価する表現ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●複雑な中国語文法の知識を身につけている。 ●普通の語彙を覚えた上で、相当量のビジネス用語を記憶している。 ●正式な場合における一般的な言い方とインフォーマルな場合における言い方の区別をつけられるとともに、正式な言い方を使用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ビジネス中国語の情報を読むことができる。 ●マスコミ放送の内容及び討論の焦点を理解し、聴き取ることができる。 ●ビジネス商談の場で自分の考え方を述べるができる。 ●ビジネス会議の内容をメモに取ることができる。 ●応募者の面接を行うことができる。 ●仕事に関する報告書を書くことができる。
5 級	かなり流暢で、適切に中国語を用いてビジネスに従事することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●各方面の意見を分析、まとめをすることができる。 ●適当な言葉で同僚、部下、上司の行動を讃え褒めるとともに、アドバイスや助言もできる。 ●適当な言葉で相手を説得することができる。 ●詳細に物事の可能性及び不可能性を述べるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●複雑な中国語文法の知識を身につけると同時に、正確かつその場に応じたふさわしい表現をすることができる。 ●普通の語彙を覚えた上で、相当量のビジネス用語を熟練して用いることができる。 ●各種類の語彙体型の機能及びそのニュアンスを理解すると同時に正確に用いることもできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●個人、集団交際関係及び世間の複雑且つ微妙な問題を議論することができる。 ●争点となっている問題についてと討論することができる。 ●ビジネス文書を読み取ることができる。 ●正式な講演を行うことができる。 ●市場状況、トレンド及び結果を述べるができる。

BCT の出題形式

BCT の出題形式は□「ヒアリング」と「読解」と□「会話」と「作文」から構成されています。

一、BCT の出題形式：□「ヒアリング」と「読解」

BCT の出題形式には、「ヒアリング」と「読解」という 2 項目があり、各項目の問題数及び解答時間は下記の通りです。

表 4 BCT の出題形式（ヒアリングと読解）

試験項目	問題数	解答時間
ヒアリング問題	50 問	40 分
読解問題	50 問	60 分
合 計	100 問	100 分

（一）ヒアリング

ヒアリング問題用紙は、四つの部分から構成されています。出題形式、問題数及び割合は下記の通りです。

表 5 ヒアリングの出題形式、問題の数及び割合

出題形式	問題数	割合（％）
1、選択問題	12 問	24%
2、選択問題	20 問	40%
3、選択問題	10 問	20%
4、穴埋め問題	8 問	16%

第一部分（12 問）は三選択問題です。12 の短文を聞いた後に、A、B、C から適当な解答を選びます。答案用紙には問題と解答を印刷していませんので、受験者は適当な解答を選んで、答案用紙に書きます。各問ごとに、7 秒間の解答時間を設定しております。

第二部分（20 問）は四選択問題です。20 問の会話或いはスピーチを聞いた後、A、B、C、D から適当な解答を選びます。答案用紙には問題と解答を印刷してありますので、受験者は適当な解答（絵か文字）を選んで、答案用紙に書きます。受験者はまず設問（録音）を聞きます。続いて会話あるいは

スピーチを聞きながら、解答を選びます。各問ごとに、10秒～15秒間の解答時間を設定しております。

第三部分（10問）は四択問題です。やや長めの三つの会話あるいはスピーチが流されます。それぞれに幾つかの問題が出ていますが、問題および解答 A、B、C、D が解答用紙に印刷してあります。受験者はまず設問（録音）を聞きます。続いて解答を選びます。各問ごとに、30秒～40秒間の解答時間を設定しております。

第四部分（8問）は穴埋め問題です。問題用紙には幾つかの短い文章を印刷してあります。文章の中には穴埋め用の空欄（空欄のところには問題の番号）があります。受験者は会話あるいはスピーチを聞きながら、空欄のところには問題の解答番号か文字を書きます。各問ごとに、30秒～40秒間の解答時間を設定しております。

ヒアリング問題は一回のみ流されます。受験者は解答を解答用紙に書きます。ヒアリング問題は、受験者が録音問題からいかに関係情報をつかむかという能力を測ることに重点を置いています。その具体的な能力は下記の通りです。

- 1、標準語での普通の速度の会話あるいはスピーチを聴き取る能力。自然のスピードで、問題（録音）を流しており、170～260字/毎分です。
- 2、問題の内容は、ビジネスおよびビジネスに関する日常業務範囲内とされます。問題内容となっている題目および口調から会話の言語環境および話し手の身分、立場を推測する受験者の言語能力を測ります。
- 3、ビジネスで常用される言語習慣を理解し、話し手の真意を把握する能力を測ります。
- 4、話の要点およびポイントを聴き取ると同時に、記録を取ることもできる能力を測ります。

（二）読 解

読解問題は、四つの部分から構成されています。出題形式、問題の数及び割合は下表の通りです。

表 6 読解の出題形式、問題の数及び割合

出題形式	問題数	割合（％）
1、選択問題	22 問	44％
2、選択問題	12 問	24％
3、選択問題	10 問	20％
4、設問解答式	6 問	12％

第一部分（22問）は選択問題です。問題用紙に幾つかの短文があって、内容はビジネスおよびビジ

ネス業務に係るものです。題材、短文の長さ、難易度がそれぞれ異なっています。内容の例：掲示板、メモ帳、携帯メール、電子メール、ファックス、ビジネスレター、広告、告示、通知書、図表、伝票、製品説明書、新聞記事、ビジネス文書、ビジネス専用ホームページ等に及んでいます。短文の後に、幾つかの設問があります。受験者は A、B、C、D から適当な解答を選び、その番号を書きます。

読解問題は受験者の文章理解の能力を測ることに重点を置いています。その具体的な内容は下記の通りです。

- 1、具体的な文字情報から役に立つ情報をつかんで、目的を達成する能力
- 2、ビジネス分野で常用される図表の意味を正確に把握し、中国語文章の表現法を理解する能力
- 3、読解文の要点を理解し、細部を把握する能力
- 4、読解文を読んだ上、物事を推測する能力
- 5、読解文の作者の考えおよび意図を理解する能力

第二部分（12問）は四選択問題です。適当な言葉を選んで、穴埋めする問題です。問題用紙にはビジネス文書あるいは社会生活に係る二つの文章が印刷してあり、幾つかの穴埋め用の空欄があります。受験者は A、B、C、D から文章と関わりのある最も適当な解答を選び、その番号を書きます。

この12問の問題は受験者の文章理解の総合能力を測るための設問です。文章全体を理解した上で、類義語の識別能力、中国語の常用文法の構成に慣れることに重点を置いています。

第三部分（10問）は四選択問題です。設問および選択用解答の A、B、C、D が問題用紙に印刷してあります。受験者は文章を通読した上、設問と最も密接な関係のある解答を選んで、答案用紙に書きます。

この8問の問題は受験者が文章から関係情報を見出した上で、情報の比較および読解の能力を測るためのものです。

第四部分（6問）は設問に答える問題です。六つの問題と比較的長い文章が印刷されてあります。受験者は文章を通読した上、解答します。但し、解答の字数は1文字～10文字までとします。問題用文章は契約書、法律・法規・条例、ケーススタディ、会社紹介、経済界の人物紹介等に及んでおり、主に新聞、雑誌、書籍およびインターネットから選び出したビジネス分野の文章です。

この6問の問題は受験者が文章から有用な情報をスピーディに探し出す能力を測るためのものです。その具体的な能力は下記の通りです。

- 1、迅速に必要な情報を把握する能力。
- 2、最も簡潔な文で答えを書く能力。

二、BCT の出題形式：□「会話」、「作文」

BCT 出題形式には、「会話」と「作文」という 2 項目が含まれており、各項目の問題数及び解答時間は下記の通りです。

表 7 BCT 試験の出題形式（会話と作文）

試験項目	問題数	解答時間
会話問題	2 問	10 分
作文問題	2 問	40 分
合 計	4 問	50 分

（一） 会 話

会話問題には 2 種類の課題があります。1 題目の準備時間は 1 分 30 秒であり、問題（録音）を流す時間は 1 分間です。2 題目の準備時間は 2 分 30 秒であり、問題（録音）を流す時間は 2 分間です（録音問題の解説時間と試験時間とあわせて 10 分間）。

会話問題は録音テープを聴く方式を取っていますが、具体的な流れは下記の通りです。

- 1、受験生は問題用紙を見ながら録音を聞きます
- 2、テープの中には、幾つかの話題について、録音をしてあります。それを聞いて問題に適切な答えを解答（音声録音）していきます。
- 3、問題ごとに説明および答え方に関して解説しております。
- 4、受験生が準備を整えます。
- 5、準備ができたなら、問題と関係のある一区切りの録音問題が流されます。受験生はそれを聞いたあと、解答（音声録音）していきます。
- 6、録音問題が終了する 10 秒～15 秒前に、電子音が聞こえますので受験生は会話問題を終了させます。

会話試験は、ビジネスあるいはコミュニケーションを行う上で必要な中国語会話能力を測るためのものです。

その具体的な能力は下記の通りです。

- 1、口頭表現によって、与えられた任務を遂行する能力。
- 2、正確に、流暢かつ適切に表現する能力。

（二）作 文

作文問題にはビジネスあるいはビジネスコミュニケーションに関係する二つの課題が含まれています。問題は文章あるいは図表で出題し、受験生は作文によって解答します。作文は手紙か短い説明文、

あるいは評論文という文体が主体です。

字数については、1 題目は 80 字～120 字とし、2 題目は 250 字以上とします。

試験時間は 40 分です。

字体については、漢字(繁体字使用は可)で書きます。漢字の一文字と句点は一マスを使用します。

作文試験は、ビジネスあるいはコミュニケーションを行う上で必要な中国語を用い、書面によって中国語を表現する能力を測るためのものです。

その具体的な能力は下記の通りです。

- 1、中国語を用いて、文書によって与えられた任務を遂行する能力。
- 2、論理、論拠を明白に、流暢且つ適切な中国語を書く能力。

BCT の採点基準

□「ヒアリング」と「読解」と□「会話」と「作文」の採点方式と基準はそれぞれ異なります。

一、「ヒアリング」と「読解」の採点方式及び基準について

「ヒアリング」と「読解」はそれぞれ 50 問あります。選択問題、穴埋め問題および文字問題の中には適切な解答は一つしかありません。得点 0 点か 1 点で、1 問題に 1 点を配分します。

二、「会話」と「作文」の採点方式及び基準について

「会話採点基準」または「作文採点基準」に基づいて、受験生との解答録音および作文を採点します。これによって、受験生の会話点数と作文点数がつけられます。下表をご参照ください。

表 8 会話試験の採点基準

等級	採点基準
1 級	<p>交渉任務：任務を遂行できない。</p> <p>文法・語彙：限られた言葉と簡単な文法が用いられるが、間違いが多く、意思の疎通に影響が出ている。</p> <p>発音：大きな問題があり、聞き手の理解に支障がある。</p> <p>話し方：単語或いは片言が主体である。</p> <p>流暢さ：流暢ではない。会話の接続感が無く、話が途切れる時間が長過ぎる。</p>
2 級	<p>交渉任務：部分的に完成している。</p> <p>文法・語彙：ある程度の単語量を持っているが、適切な言葉を適切な場で良く用いられない場合も時々ある。簡単な会話ができるが、意思の疎通には影響がある。</p> <p>発音：発音には問題があるため、聞き手が理解するためには時々支障がある。</p> <p>話し方：短い話と片言が主体である。</p> <p>流暢さ：常用の短い文と片言が比較的流暢に話すことができるが、自分なりの応用はできない。話が途切れる時間が比較的多い。</p>

等級	採点基準
----	------

3級	<p>交渉任務：完成までには及ばない。</p> <p>文法・語彙：話し方には基本的に問題が無い。相当な単語量を覚えている。常用のビジネス用語が用いられるが、間違いが少なく、意思の疎通に影響を及ぼさない。</p> <p>発音：問題があるが、相手が理解するには支障がない。イントネーションが比較的正確である。</p> <p>話し方：短文と複文が主体である。</p> <p>流暢さ：ほとんどの話は比較的流暢であるが、複雑な会話になると流暢さが足りない。話の途中で途切れることがある。</p>
4級	<p>交渉任務：すべて完成している。</p> <p>文法・語彙：話し方は流暢である。かなりの単語量がある。数多くのビジネス用語を用いることができる。単語の使用は正確にできる。比較的、複雑な語彙を用いる時に、間違いは出るが、意思の疎通に影響しない。</p> <p>発音：個別の発音には問題があるが、理解するには支障がない。イントネーションが正確である。</p> <p>話し方：短句と長句が主体である。</p> <p>流暢さ：流暢に話せる。</p>
5級	<p>交渉任務：すべて完璧に完成している。</p> <p>文法・語彙：話し方は流暢であり、自然である。単語量が多い。数多くのビジネス用語をその場に応じて良く用いることができる。必要に応じて、自由自在に複雑な語彙を用いることができる。たまには小さな間違いは出るが、意思の疎通には影響しない。</p> <p>発音：個別の箇所の発音には問題があるが、相手が理解するに支障がない。イントネーションが非常に正確である。</p> <p>話し方：長句が主体である。</p> <p>流暢さ：非常に流暢な中国語を話すことができる。</p>

表9 作文試験の採点基準

等級	採点基準
1級	<p>交渉任務：遂行できない。</p> <p>文法・語彙：間違いが多く、意思の疎通に非常に影響がある。</p> <p>論理性：論理性が欠けている。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：誤字が非常に多い。句点等の使い方はほとんどできない。意思の疎通には非常に支障がある。</p> <p>全体的な印象：文書の意味が分かりにくい。</p>
2級	<p>交渉任務：部分的に完成している。</p> <p>文法・語彙：ある程度の単語量があるが、適切な言葉はその場に応じて良く用いられない場合も時々ある。簡単な会話ではできるが、部分的な語句は意思の疎通に影響がある。</p> <p>論理性：論理性に欠けている。句と句のつながりが不自然である。</p> <p>漢字の使用および文書の書式：当用漢字はある程度書けるが、句点等の使い方に誤りがあり、時々意思の疎通に支障が出ることもある。</p> <p>全体的な印象：意味の分からない部分を無視して大意を推測することができるレベル。</p>
3級	<p>交渉任務：基本的に完成している。</p> <p>文法・語彙：文書は基本的に意味をなしている。相当な単語量を覚えている。常用のビジネス用語が用いられ、間違いがあるものの、基本的には意思の疎通に影響しない。</p> <p>論理性：ある程度の論理性がある。句と句のつながりが基本的に自然である。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：比較的正確に常用漢字が書ける。難しい漢字を書く際に、誤字が出るものの、意思の疎通にほとんど支障が出ない。初級の常用文書が書けるが、書式には多少間違いが出てくる。</p> <p>全体的な印象：間違いはあるが、意味が分かるレベル。</p>

4 級	<p>交渉任務：すべて完成している。</p> <p>文法・語彙：語順がよくできている。比較的たくさんの単語量を持って、数多くのビジネス用語を用いることができる。複雑な語彙を用いる時に多少間違いは出るが、意思の疎通には影響がない。</p> <p>論理性：比較的論理性がある。句と句のつながりが自然である。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：当用漢字が比較的正確に書けるとともに、句点等の使い方も正しい。多少文章には間違いがあるが、意思の疎通に支障が出ない。常用の文書が書けるとともに、書式も基本的に問題が無い。</p> <p>全体的な印象：意図がよく分かる。</p>
5 級	<p>交渉任務：すべて完璧に完成している。</p> <p>文法・語彙：語順がよくできているし、文書で意味をよく表している。相当多くの単語量を覚えているとともに、ビジネス用語もよく用いている。時々小さな間違いをするが、意思の疎通には影響しない。</p> <p>論理性：文章の論理性が非常にはっきりしており、句と句のつながりもとても自然である。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：漢字を正確に書けるとともに、句点等の使い方も正しい。文章に時々間違いがあるが、意思の疎通に支障は出ない。常用の文書が書けとともに、書式も問題がない。</p> <p>全体的な印象：文章全体の意図が分かりやすい。</p>